

世界的危機の中、歴史ある 地方紙の新たな使命

—東大阪新聞創刊90周年記念講演会開催—

東大阪市に本社を置き、八尾・柏原など河内地域の話題を発信し続けている東大阪新聞が、ここの創刊90周年を迎え、5月7日(土)、東大阪市文化創造館大ホール(東大阪市御厨南2-3-4)で記念の講演会を開催した。

講演に先立ち、同紙を編集・発行する東大阪新聞社の6代目社長を務める小野元裕氏が、創刊からこんにちまで「日本一長い歴史を持つ地方新聞」が歩み続けて来た歴史を解説。直木賞作家で僧侶・政治家としても活躍した今東光氏が「健康を揮(ふる)った黎明期から『河内のええニュース』だけを取り上げるに至ったこんにちの紙面。またロシアのウクライナ侵略という世界的危機のなか、日本における数少ないウクライナ研究者として多忙を極めるなかで、今後東大阪新聞が担ってゆく使命について語った。

生と死を見つめて

—平穏死からコロナまで—

長尾クリニック院長・医学博士 長尾和宏氏



とともに「痛くない死に方」「ひとりも、死なせへん」など多くの著書を執筆し、映画「けっぴいな町医者」のモデルとしても知られる。

同日午後2時より開催された記念講演会で、小野社長と深いつながりを持ち、東大阪新聞にも寄稿している医師の長尾和宏氏(写真)が登場。長尾氏は「在宅医療を展開する

同日午後2時より開催された記念講演会で、小野社長と深いつながりを持ち、東大阪新聞にも寄稿している医師の長尾和宏氏(写真)が登場。長尾氏は「在宅医療を展開する

や、30代〜50代の若年の尊さ」について述べ、大を抑制する為「町層でがん患者が増え、るとともに、1200 医者が最初の皆となかからの生死と向き合 人以上のコロナ患者の ることの重要性を語っうなかで得た「平穏死」診察に当たり、感染拡大。